

# Seasar Conference 2006 Autumn



## Seasar.org 運用の舞台裏

2006.11.12

The Seasar Foundation

法政大学大学院情報科学研究科

有限会社インテグシステム

二川 潤



## 自己紹介

- **名前:** 二川 潤 (ふたがわ じゅん / jfut)
- **所属:**
  - 法政大学大学院 情報科学研究科 情報科学専攻 博士課程
    - <http://cis.k.hosei.ac.jp/>
  - CIS RAT (Faculty of Computer and Information Sciences Resource Administration Team)
    - <http://rat.cis.k.hosei.ac.jp/>
  - 有限会社インテグシステム 代表取締役社長
- **メールアドレス:** jfut @ featia.net
- **Seasarとのかかわり:**
  - サーバチームリーダー
  - S2Directoryプロジェクトリーダー
  - S2AnAコミッタ



- 各種申請関係
  - ふたがわ (jfut), 辻本さん (tsuji)
- ML関係
  - 山本さん(yamamoto)
- イベントサイト関係
  - 染田さん(someda), 西岡さん(nishioka)
- アドバイスやご意見
  - 皆さん



## 本セッションのポイント

- アプリケーション開発と**間接的に**関係するお話
  - 本カンファレンス唯一！！
- アプリケーション開発者も**インフラの知識**を求められる
  - 認証連携
  - 開発環境
  - 負荷分散
- Seasarで見るサービスの舞台裏へ
  - オープンソースソフトウェアの組み合わせ



## まずはサービス規模の紹介

---

# 各種統計



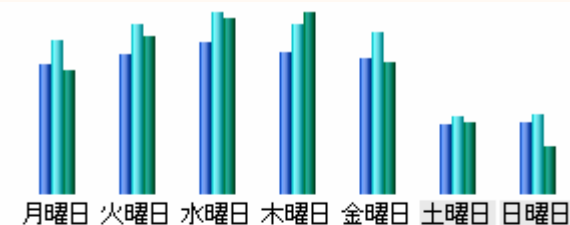
## プロジェクトとコミッタ数

- プロジェクト数: 69プロジェクト
  - 開発プロジェクト: 64
  - 特定用途プロジェクト: 5
    - www, server, foundation, eclipse, maven
  - 平均コミッタ数: 3.82人 (www除く)
- コミッタ数: 116名
  - 平均プロジェクト参加数: 2.24プロジェクト (www除く)
    - 16プロジェクトのコミッタになってる精力的な方も！



## 統計いろいろ

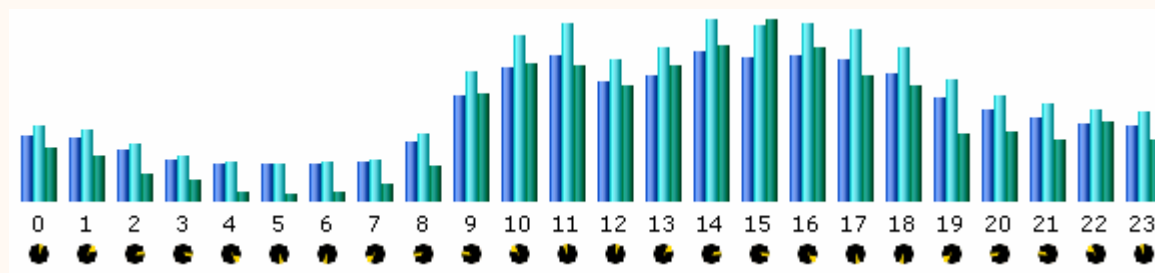
- 2006年10月の各種統計
  - ユニーク訪問者: 18,420人/月
  - ページビュー: 676,243ページ/月
  - 国内からのアクセス: **60~90%**
  - 転送量: 79.68GB/月
  - ML数: 31個
    - Seasar-user ML: 1174名



日	ページ	件数	バイト
月曜日	23816	28119	2.56 Gb
火曜日	25606	31153.80	3.25 Gb
水曜日	27756.50	33185.75	3.59 Gb
木曜日	25883	31149	3.71 Gb
金曜日	24782	29596	2.70 Gb
土曜日	12618.25	14263.25	1.45 Gb
日曜日	12994.80	14435.60	992.92 Mb

曜日別統計

**平日・昼間の  
利用者が多い!**



時間帯別統計



# サーバ環境



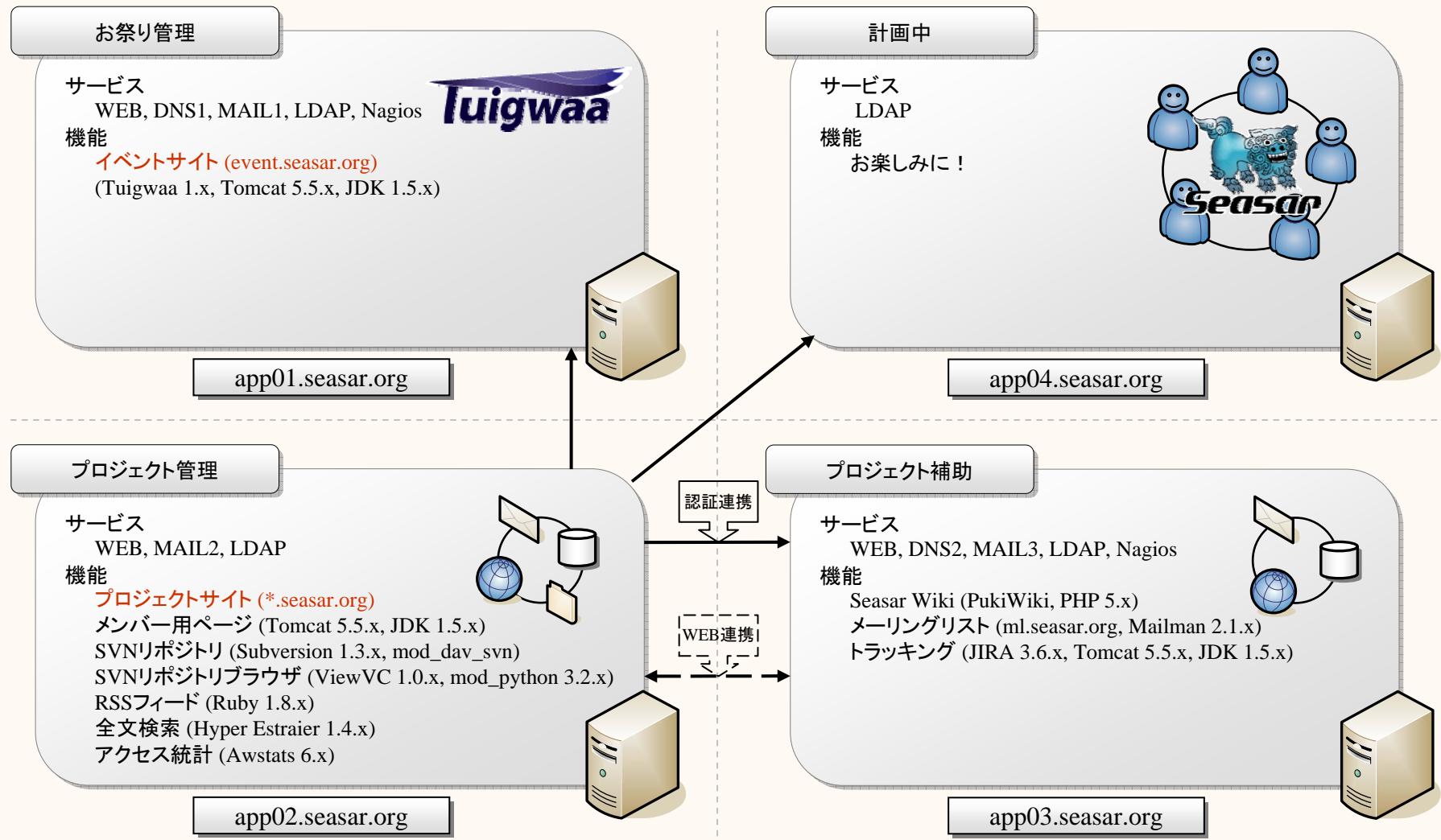


## Seasar.orgのサーバ構成

- 台数: 4台 (2006/11/12現在)
  - 2006年10月28日までほぼ全機能をapp02、1台で支えていた
    - 負荷が高く、障害に繋がってしまっていた
  - app01.seasar.org ~ app04.seasar.org ()内は該当台数
    - CPU: Intel Xeon 2.8GHz(1) | Pentium 4 2.80GHz x 2(1) | 3.20GHz(2)
    - MEM: 1GB(1) | 2GB(3)
    - HDD: RAID1 SCSI 73GB(1) | RAID1 SATA 160GB(3)
    - OS: CentOS 4.x (現在4.4)
  - 提供
    - サイオステクノロジー株式会社様 (ハード/回線)
      - 旧社名: 株式会社テンアートニ様
    - 株式会社 NTTデータ イントラマート様 (ハード)
    - 学校法人 法政大学情報科学部様 (ハード×2/回線×3)
  - ご提供ありがとうございます



# Seasar.orgサーバの役割





- 設定の分割
  - 例: Apache: Include conf.d/\*
  - 設定全体の見通しの確保
  - 全体設定の共通化
    - 全体設定はリポジトリで管理も有り
    - 設定のデプロイプロセスの確立
- 各ファイルの役割に従い位置を規定
  - 将来ディスクを共有した時のために
  - バックアップ対象を明確に
  - Convention over Configuration (CoC) に近いかも？



## ファイルの位置の例

- 配置例
  - /etc/サービス名/
  - /home/users/ユーザ名/
  - /home/groups/グループ名/
    - /home/groups/s2container/maven
    - /home/groups/s2container/public\_html
    - /home/groups/s2container/svn
    - /home/groups/search
  - /home/services/サービス名/
    - /home/services/httpd
      - /home/services/httpd/webapps
      - /home/services/httpd/webapps.d
    - /home/services/postgres
      - /home/services/postgres/data
  - /usr/local/src/ソフトウェア名/
  - /var/log/httpd/s2container/
  - /var/log/httpd/sandbox/s2directory/

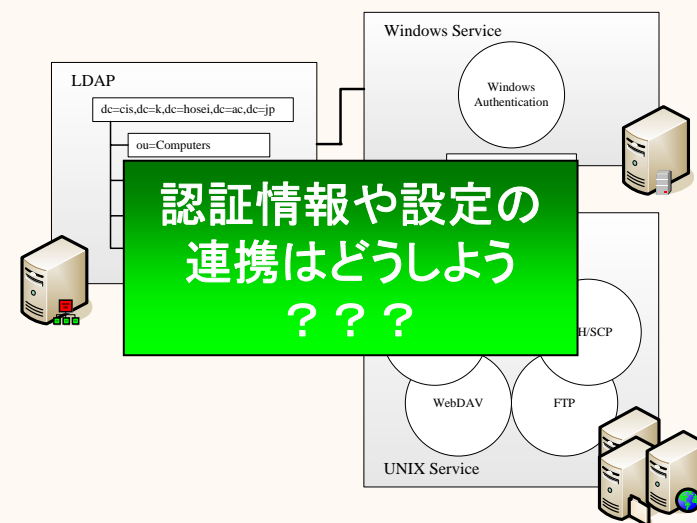


# プロジェクトとコミッタ



## 認証サービスの舞台装置

- アカウント情報はOpenLDAPで一元管理
  - LDAP = **ディレクトリサービス**
  - 1プロジェクト = **1グループエントリ = 1グループ**
  - 1コミッタ = **1ユーザエントリ = 1ユーザ**
- LDAPを選んだ理由
  - 複数のサーバ上で**同じユーザID・グループIDで識別したい**
  - 複数のアプリケーションで**同じ認証アカウントと設定を使用したい**
    - SSH/SCP
    - メール
    - WEBでのBASIC/DIGEST認証
    - トラッキング (JIRA)
  - 大規模プロジェクトなどで良く使われている
    - SourceForge、各種クラスタソフトウェア
  - たまたま詳しかった





## ディレクトリサービスとは

- テーブル定義がある程度標準化されているデータベース
  - 情報(値)とそれに関連する属性を対にしてデータストアに保存し、指定した属性の情報を取り出す機構
- LDAP (Lightweight Directory Access Protocol)
  - ディレクトリサービスにアクセスするためのプロトコル
  - よく使われる属性が標準化 (RFC) されている
    - ユーザ名、パスワード、ホームディレクトリなど
  - アプリケーションに対して汎用的に情報を提供可能
    - SASL (Simple Authentication and Security Layer)
      - 独自の認証の仕組みが不要
  - 実装例
    - OpenLDAP, Sun Java System Directory, Apple Open Directory, Microsoft Active Directory, etc...



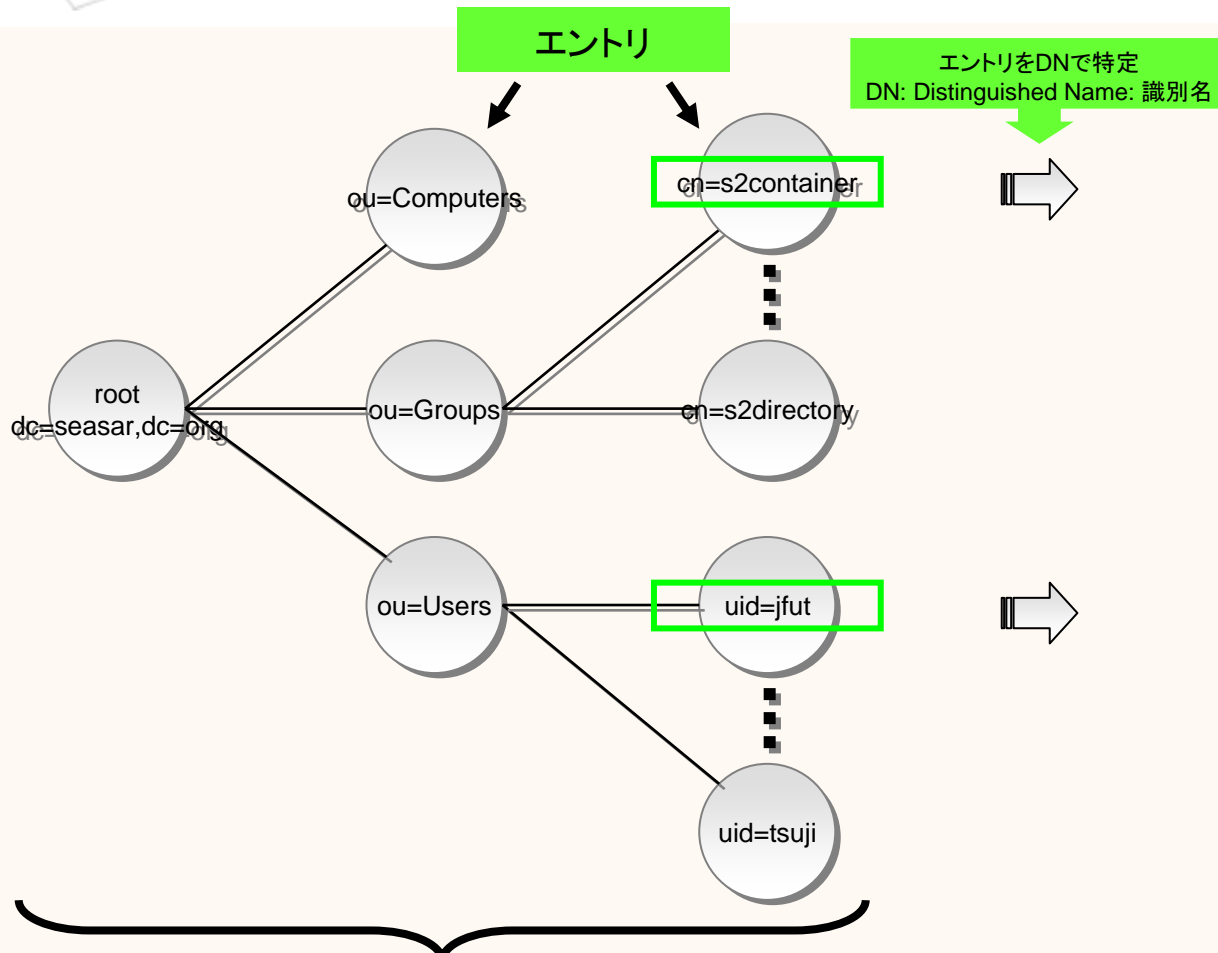
# ディレクトリ情報ツリー

エントリの中身 (グループエントリ)

dn	cn=s2container,cn=Groups,dc=seasar,dc=org
cn	s2container
<b>objectClass</b>	<b>posixGroup</b>
gidNumber	1011
memberUid	higa
memberUid	...
memberUid	koichik

エントリの中身 (ユーザエントリ)

dn	uid=jfut,cn=Users,dc=seasar,dc=org
uid	jfut
<b>objectClass</b>	<b>top</b>
<b>objectClass</b>	<b>inetOrgPerson</b>
<b>objectClass</b>	<b>posixAccount</b>
<b>objectClass</b>	<b>shadowAccount</b>
<b>objectClass</b>	<b>ldapPublicKey</b>
<b>objectClass</b>	<b>qmailUser</b>
uidNumber	1000
gidNumber	1000
userPassword	{SSHA}+MnPXSZQx ... n2d1mBU8JsJHcw
loginShell	/bin/bash
sshPublicKey	ssh-rsa AAAAB3NzaC ... jnZ3qE1ww0= jfut
...	...



ディレクトリ情報ツリー  
DIT (Directory Information Tree)





## 認証サービスの舞台装置詳細

- OpenLDAP 2.2.x (CentOS 4.x RPM)
  - 全サーバで稼動
    - 毎回1箇所参照するにはネットワークが遠く、遅延する
      - nscd (ネームサービスキャッシュデーモン) も併用している
    - バックアップ兼用
  - LDAP Sync 複製
    - DITの複製エンジン、複数サーバと差分同期
      - app02: プロバイダ, 他全台: コンシューマ
        - » TLS通信で同期
    - プロバイダ: 複製元 (マスタ)、更新と参照
    - コンシューマ: 複製先 (スレイブ)、参照のみ
  - (最後の参考資料参照)



- 従来: LDIFファイルを書いてコマンドで追加

- LDIFファイルの用意が面倒

- 最近: 管理ツールを使う

- **IDX-smbldap-tools**

- Samba用のアカウントエントリ管理ツールだが、Sambaを使わずにPOSIXアカウントエントリ管理だけでも非常に有用
- <http://sourceforge.net/projects/smbldap-tools/>

- **SMBLDAP-TOOLS Addons**

- IDX-smbldap-toolsの追加ツールでアカウント以外の属性管理に有用
  - Autofs v3/v4で使用する属性の管理ツール
  - qmail-ldapで使用する属性の管理ツール
  - OpenSSH LDAP Public Key Patchで使用する属性の管理ツール
  - etc...
- <http://smbldap-addons.sourceforge.net/>

- **Seasar.orgで活躍中**

- 実際には管理スクリプトから呼び出している

```
dn: uid=jfut,ou=Users,dc=seasar,dc=org
changetype: modify
add: homeDirectory
homeDirectory: /home/users/jfut
-
replace: cn
cn: jfut
```



- シェルスクリプト群
  - seasar-\*.sh
- 内容
  - IDX-smbldap-tools
  - SMBLDAP-TOOLS Addons
  - いろいろなコマンドの組み合わせ
- Operation MLに届く申請メールを専用の管理ツールで手動処理...



## プロジェクト関係

- プロジェクト追加: [seasar-projectadd.sh](#)
  - 書式
    - seasar-projectadd.sh プロジェクト名 [sandbox]
  - 処理内容
    - LDAPにグループエントリ追加
    - プロジェクトホームディレクトリ作成
    - プロジェクト用のApacheログディレクトリ作成
    - テンプレートから初期SVNリポジトリ作成とフックスクリプト設定
    - ApacheのバーチャルHOST設定とWebDAV設定追加
    - アクセス統計作成と自動更新対象に追加
    - 検索エンジンのクローリング対象に追加
    - リポジトリブラウザに設定を追加
- Mavenリポジトリ追加: [seasar-mavenadd.sh](#)
  - 書式
    - seasar-mavenadd.sh artifactId プロジェクト名 [sandbox]
  - 処理内容
    - プロジェクトホームディレクトリにMavenリポジトリ用ディレクトリ作成
      - chgrp プロジェクト名 DIR; chmod 2775 DIR
    - Mavenリポジトリにシンボリックリンク作成



- コミッタ追加: `seasar-useradd.sh`
  - 書式
    - `seasar-useradd.sh ユーザ名 メールアドレス 初期所属プロジェクト名`
  - 処理内容
    - LDAPにユーザエントリ追加
    - グループエントリの所属ユーザに追加
    - パスワード設定
    - JIRA (トラッキング)用追加スクリプト生成
- 所属プロジェクト追加: `smbldap-groupmod`
  - `IDX-smbldap-tools`のコマンドそのまま
  - 書式
    - `smbldap-groupmod -m プロジェクト名 ユーザ名`
  - 処理内容
    - グループエントリの所属ユーザに追加
- 公開鍵ユーザに設定: `seasar-sshadd.sh`
  - 書式
    - `seasar-sshadd.sh ユーザ名`
  - 処理内容
    - LDAPの該当ユーザエントリに公開鍵属性を追加



# リポジトリとプロジェクトサイト



## WEBサービスの舞台装置

- 中心となる舞台装置
  - Apache 2.2.x: WEBサーバ
    - MPM: prefork
      - デフォルトのスレッド管理方式
    - Apacheに付属されている主な追加モジュール ( --enable-\* )
      - `mod_ldap`, `mod_authnz_ldap`, `mod_deflate`, `mod_proxy`, `mod_ssl`
    - Apacheに付属されていない追加モジュール
      - `mod_dav_svn`, `mod_authz_svn`, `mod_python`, `libphp5`
  - Subversion: リポジトリ
- 補助装置
  - `Tuigwaa`: イベントサイト
  - Mailman: メーリングリスト
  - PukiWiki: SeasarWiki
  - ViewVC: リポジトリブラウザ
  - Hyper Estraier: 全文検索エンジン



- 基本的に各プロジェクト任せ
- 基本形
  - /branches
    - ブランチ作業用、1.xと2.x系列あつたりする時など
  - /tags
    - リリース時点のスナップショット
  - /trunk
    - /モジュール1
    - /モジュール2
    - ...
    - /www プロジェクトサイトのコンテンツ
- 詳細
  - <http://svn.seasar.org/browse/>





- \$SVN\_REPOS\_DIR/hooks 以下
  - 代表的なフックスクリプト
    - pre-commit
      - コミットする前に実行
    - post-commit (最後の参考資料参照)
      - コミット後に実行
      - RSSフィード生成 ( <http://www.seasar.org/feed/> )
        - » 全コミット
        - » サイト更新に関するコミット
      - wwwプロジェクトの場合、サイトを公開する処理実行



- クライアント側
  - Subclipse, TortoiseSVN, svn, etc...
- サーバ側
  - SVNとWebDAV連携
    - mod\_dav, mod\_dav\_svn
  - コミット時の認証
    - Apacheの基本認証にお任せ
      - mod\_ldap, mod\_authnz\_ldap
      - LDAPのグループエントリ(=プロジェクト)に所属するユーザ(=コミッタ)で認証成功した場合にコミット許可
      - 読み込みは認証なしに誰でも可能



設定: /etc/httpd/conf.d/ssl/svn.conf

- 指定したLDAPのグループエントリに所属するユーザにコミット許可

```
<Location /svn/s2container>
  Dav svn
  SVNPath /home/groups/s2container/svn
  SVNIndexXSLT "/svnindex/svnindex.xsl"
  AuthName "Subversion repository"
  AuthType Basic
  AuthBasicProvider ldap
  AuthLDAPUrl "ldap://localhost:389/ou=Users,dc=seasar,dc=org?uid?"
  AuthLDAPGroupAttribute memberUid
  AuthLDAPGroupAttributeIsDN off
  <LimitExcept GET PROPFIND OPTIONS REPORT>
    require ldap-group cn=s2container,ou=Groups,dc=seasar,dc=org
  </LimitExcept>
</Location>
```

→ <https://www.seasar.org/svn/s2container/>

→ ユーザ名が記された属性名

} コミット動作に対する認証要求



## プロジェクトサイト

- Seasarプロジェクトサイト
  - <http://www.seasar.org/>
  - 更新できる人: **コミッタ全員**
- 各プロジェクトサイト
  - <http://プロジェクト名.seasar.org/>
  - <http://プロジェクト名.sandbox.seasar.org/>
  - 更新できる人: **所属コミッタ**
- SVNリポジトリで管理
  - **svn co** された状態





## プロジェクトサイトの更新方法

1. SVNリポジトリからチェックアウト
  - <https://www.seasar.org/svn/www/trunk/www>
  - <https://www.seasar.org/svn/s2container/trunk/www>
  - <https://www.seasar.org/svn/sandbox/s2directory/trunk/www>
2. HTMLを修正
3. コミット
4. コミット用ページで「公開」をポチっとする
  - `svn update`実行、プロジェクトサイトが公開される
  - 例外: `www`プロジェクトは不要
    - フックスクリプトで自動公開

## Seasar ユーザページ

[ユーザホーム](#) [パスワード変更](#) [公開鍵変更](#) [ログアウト](#)

### ユーザ情報

項目	値
ユーザ名	jfut
ユーザID	1000
ログインシェル	/bin/bash
ホームディレクトリ	/home/users/jfut

### 所属プロジェクト情報

- 公開ボタンを押すと該当プロジェクトのSVNリポジトリ `www/` 以下がサイトに反映されます。
- 統計ボタンを押すと該当プロジェクトの統計ログを閲覧できます。(再認証必須)

プロジェクト名	プロジェクトID	プロジェクトメンバー	サイト
<a href="#">maven</a>	1007	manhole, skimir, higa, jfut	確認 公開 統計
<a href="#">s2ana</a>	1043	t-wada, jfut	確認 公開 統計
<a href="#">s2directory</a>	1008	jfut, t-wada	確認 公開 統計
<a href="#">server</a>	1002	jfut, kwj, mshimura, masataka, ymatsui, higa, hosokawa, koichik, kowaindesukedo, makotan, nasobeme, ryo_matsuda, yamamoto, egot, someda, nishioka, tsuji	確認 公開 統計
<a href="#">www</a>		All Developers	確認 自動更新 統計

公開ボタン

ユーザ名	jfut
現在の公開鍵	<pre>ssh-rsa AAAAB3NzaC1yc2EAAAABIwAAAIEAocqzS4jduS+eGFuCjc19wL3WvikgNri2+PEKUz86kSziXbnTOqv6Q N/mOwqLDZ24NUV7dItZ2oX39idy5Iot2bMS+rCQgkkqJ9YoyuFcFtTXbf2E56fhPCjgxT2ZpS09KsSch cPJpUhFMwUxomIDRjnZ3qEkHUUW4Gn9gJ8B1ww0= jfut@featia.net</pre>

\* 改行を含めずに貼り付けて下さい。複数鍵の登録には対応していません。  
 例1: ssh-rsa AAAAB3Nza...(省略)...B1ww0= user@example.org  
 例2: ssh-dss AAAAB3Nza...(省略)...G11bE= user@example.org

Update

### 公開鍵ユーザについて

公開鍵を登録できるのは、サーバチームとMavenリポジトリを利用するユーザのみです。  
 Mavenリポジトリを利用する場合は、新たにOperation MLまで申請してください。

公開鍵登録



## コミッタ用ページの機能

- URL: <https://www.seasar.org/members/>
- コミッタのためのページ
  - プロジェクトサイト公開 (svn update)
  - パスワード変更
  - SSH/SCP用の公開鍵登録
- Seasarプロダクト使用
  - S2Container
  - S2Struts
  - Mayaa
  - S2Directory !?



- URL: <http://s2directory.sandbox.seasar.org/>
- O/D Mapping ( Object / Directory Mapping )
  - エントリ・属性とオブジェクトを結びつける
- もっと簡単に一言で言うと…
  - S2DaoのDao対象がリレーショナルデータベースからディレクトリサーバになったもの
  - 認証に特化した機能も有り
    - ユーザモード実行
    - パスワード管理
      - 対応暗号化方式: MD5,SMD5,SHA,SSHA,PLAIN





- S2Daoを使ったことがある方であればお馴染み

```
public interface PosixAccountDao {  
    public Class BEAN = PosixAccount.class;  
    public static final String getUserByUid_ARGS = "uid";  
    public PosixAccount getUserByUid(String uid);  
    public int update(PosixAccount dto);  
}
```

Daoインターフェース

```
PosixAccountDao dao = (PosixAccountDao)container.getComponent(PosixAccountDao.class);  
PosixAccount user = dao.getUserByUid("user1");  
user.setDescription("更新値");  
dao.update(user);
```

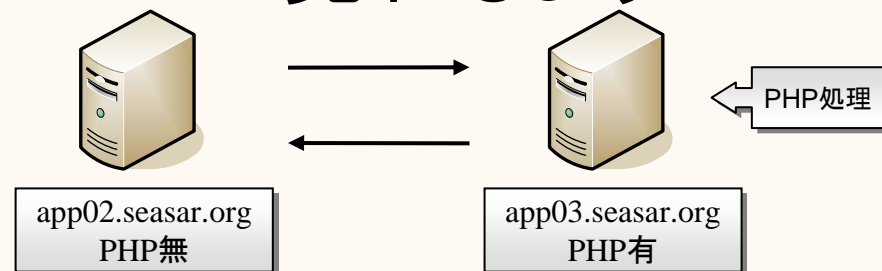
更新処理の例



## プロジェクト補助機能の裏側

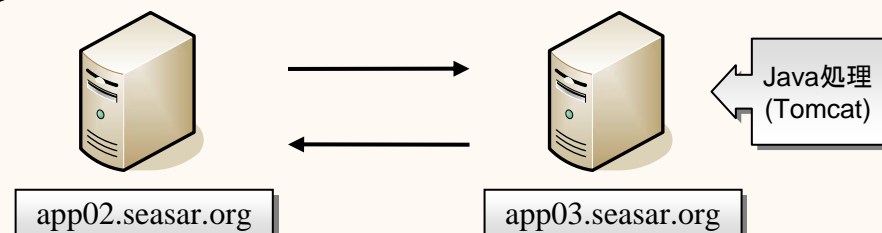
- app03.seasar.org で処理
- <http://www.seasar.org/?????/> で見せたい
  - www.seasar.org は app02.seasar.org サーバ
  - mod\_proxy
- Sandbox卒業時のURL書き換え
  - mod\_rewrite

- PukiWiki 5.1.x (PHP)
  - app03.seasar.org で稼動
- <http://www.seasar.org/wiki/> で見れるように
  - www -> app02
  - app02 -> app03



```
<IfModule mod_proxy.c>
ProxyRequests Off
ProxyPreserveHost On
SSLProxyEngine On          (SSLのバーチャルホスト用に設定する場合)
ProxyPass /wiki http://app03.seasar.org/wiki
ProxyPassReverse /wiki http://app03.seasar.org/wiki
</IfModule>
```

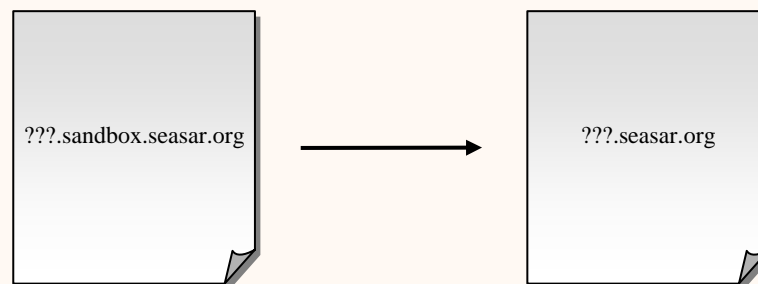
- Atlassian JIRA Enterprise Edition 3.6.x (Java)
  - Tomcat 5.5.x
  - オープンソースライセンス
- <https://www.seasar.org/issues/> で見れるように
  - www -> app02
  - app02 -> app03



```
<IfModule proxy_ajp_module>  
ProxyRequests Off  
ProxyPass /issues ajp://app03.seasar.org:8009/issues  
ProxyPassReverse /issues ajp://app03.seasar.org:8009/issues  
</IfModule>
```



- 旧URLでのアクセスをリダイレクト
  - 301 Moved Permanently



```
<VirtualHost *:80>  
  ServerName mayaa.sandbox.seasar.org  
  <IfModule mod_rewrite.c>  
    RewriteEngine on  
    RewriteRule (.*) http://mayaa.seasar.org$1 [L,R=301,NE]  
  </IfModule>  
</VirtualHost>
```



## バックアップの裏側

- rsync over SSH
  - 完全バックアップ
- rdiff-backup over SSH
  - 差分バックアップ
  - 1週間分



# 管理者



## 管理者の舞台装置

- サーバはLinuxだけどクライアント環境は...
  - OS: Windows XP Professional with SP2
    - 便利です。適材適所！
- Windows上の環境
  - PuTTY  $\beta$  0.58 ごった煮版
    - PuTTY
    - Pageant
    - Pfw
  - Kie (Knowledge Index Editor)
    - アウトラインプロセッサ
    - 手順を覚えておくのは無理
      - メモの蓄積重要！
- Linux上の環境
  - bash or zsh
  - screen
  - vim (vi)





## まとめ



- Seasar.orgの「あれやそのの仕組み」
  - 数多くのオープンソースで構築
  - Seasarプロダクトも活用
  - LDAPによる認証情報の一元管理
    - 同じ認証情報をいろいろなアプリケーションで利用可能
    - 1台構成でも結構便利
- 今後の課題
  - 手動部分の自動化
  - リポジトリを中心とした基幹システムへ
    - Yukaraプロジェクト
      - The Ashikunep Kotan
        - » <http://www.ashikunep.org/>



- 舞台演者
  - コミッタ、利用者の皆さん
- 舞台裏の役割
  - コミッタの皆さんが開発に専念できるように
  - 利用者の皆さんがより簡単に情報を手に入れられるように
- SeasarやOSS開発・普及の手助けになれば幸いです



## LDAPに興味を沸かれたら

- ネットワークセキュリティ Expert 3
  - ISBN: 4-7741-2594-6
  - 出版社: 技術評論社
  - 2005年12月発行
  - オープンソースで作る一元管理環境
    - 計28ページ
      - UNIXログイン (pam\_ldap)
      - メールサーバ (qmail-ldap)
        - » SMTP, SMTP AUTH, SMTP with STARTTLS
        - » POP3, POP3S
        - » IMAP, IMAPS
      - OpenSSH LDAP PUBLIC KEY PATCH
      - autofs with LDAP





- ご質問
  - ラウンジのスピーカースペースでお待ちしております
    - サーバに関するご相談があればどうぞ
  - 歩いてたらお気軽に話し掛けてください
- 申請したい方
  - Operation ML へどうぞ！
    - <https://www.seasar.org/mailman/listinfo/operation>



おわり

ご静聴ありがとうございました！



# 参考資料

是非、参考にして構築してみてください



## /etc/openldap/slapd.conf

```
# Basic Schema
include /etc/openldap/schema/core.schema
include /etc/openldap/schema/cosine.schema
include /etc/openldap/schema/inetorgperson.schema
include /etc/openldap/schema/nis.schema
# Additional Schema
include /etc/openldap/schema/samba.schema
include /etc/openldap/schema/qmail.schema
include /etc/openldap/schema/openssh-lpk.schema

allow bind_v2
sizelimit 100000
pidfile /var/run/slapd.pid
argsfile /var/run/slapd.args

# SSL
TLSCertificateFile /etc/ssl/server/ldap/wildcard.seasar.org.crt
TLSCertificateKeyFile /etc/ssl/server/ldap/wildcard.seasar.org.key
TLSCACertificateFile /etc/ssl/ca/cacert.pem

# Basic ACL
access to
attr=userPassword,sambaLMPassWord,sambaNTPassWord,mailForwardingAddress
  by dn="cn=Manager,dc=seasar,dc=org" write
  by self write
  by anonymous auth
  by * none

access to *
  by dn="cn=Manager,dc=seasar,dc=org" write
  by self write
  by * read
```

```
# Database
database bdb
suffix "dc=seasar,dc=org"
rootdn "cn=Manager,dc=seasar,dc=org"
rootpw 暗号化パスワード
directory /home/services/ldap/data

# Index
index objectClass,entryCSN,entryUUID eq
index uid eq
index cn,sn,displayName pres,sub,eq
index uidNumber,gidNumber,memberUid eq
index sambaSID,sambaPrimaryGroupSID eq
index sambaDomainName eq
index mail,mailAlternateAddress eq,sub
index default sub

# bdb performance chuning
cachesize 10000
checkpoint 128 15

# Provider: LDAP Sync (2.2.x)
sessionlog 001 100

# Slave: LDAP Sync (2.2.x)
#syncrepl rid=001
# provider=ldaps://ldap02.seasar.org:636
# type=refreshAndPersist
# interval=00:00:00:10
# searchbase="dc=seasar,dc=org"
# filter="(objectClass=*)"
# scope=sub
# schemachecking=off
# updatedn="cn=Manager,dc=seasar,dc=org"
# bindmethod=simple
# binddn="cn=Manager,dc=seasar,dc=org"
# credentials=平文パスワード
#updateref ldaps://ldap02.seasar.org:636
```

プロバイダ用

コンシューマ用





## /usr/local/httpd/build/config.nice

```
"/configure" ¥  
"--prefix=/usr/local/httpd" ¥  
"--enable-mods-shared=all" ¥  
"--enable-ldap" ¥  
"--enable-authnz-ldap" ¥  
"--enable-cache" ¥  
"--enable-file-cache" ¥  
"--enable-disk-cache" ¥  
"--enable-mem-cache" ¥  
"--enable-deflate" ¥  
"--enable-proxy" ¥  
"--enable-so" ¥  
"--enable-ssl" ¥  
"--enable-suexec" ¥  
"--with-mpm=prefork" ¥  
"--with-ldap" ¥  
"--with-ssl=/usr" ¥  
"--with-suexec-bin=/usr/local/httpd/bin/suexec" ¥  
"--with-suexec-caller=httpd" ¥  
"--with-suexec-userdir=public_html" ¥  
"--with-suexec-docroot=/home" ¥  
"--with-suexec-logfile=/var/log/httpd/suexec_log" ¥  
"$@"
```



## post-commit

```
#!/bin/sh

REPOS="$1"
REV="$2"

# settings
export PATH=/usr/local/bin:$PATH
## for svn log message
export LANG=en_US.UTF-8

DIR="/home/services/httpd/bin"
SITEUPDATE="$DIR/svn-commit-siteupdate.sh"
RSSUPDATE="$DIR/svn-commit-rss.sh"
# sandbox/name
REPOS_PATH=$(ruby -e 'print ARGV.shift.slice(%r!¥A/home/groups/(.+)/svn¥z!, 1)'
"$REPOS")
# site update
if [ $REPOS_PATH = "www" ]; then
  $SITEUPDATE $REPOS &
fi
$RSSUPDATE $REPOS $REV >> /tmp/post-commit.log 2>&1 &
```

### post-commit

(上記の実体をシンボリックリンクしている)

コミットされたのが www だった場合サイト更新実行  
全てのコミットでRSS生成実行

```
#!/bin/sh

REPOS="$1"
PROJECT_HOME=`dirname $REPOS`
PROJECT_DOCROOT="$PROJECT_HOME/public_html"
TARGET_DIRS=("trunk/www" "www/trunk" "www")

for TARGET_DIR in ${TARGET_DIRS[@]}
do
  SVN_PATH="file://$REPOS/$TARGET_DIR"
  ISDIR=`svn info file://$REPOS/$TARGET_DIR | grep "URL: file" | wc -l`
  if [ $ISDIR -eq 1 ]; then
    CURRENT_SVN_PATH=`svn info $PROJECT_DOCROOT | grep URL | cut -d ' ' -f 2`
    if [ $CURRENT_SVN_PATH != $SVN_PATH ]; then
      mv $PROJECT_DOCROOT $PROJECT_DOCROOT.`date '+%Y%m%d-%H%M%S`
    fi
    if [ ! -d $PROJECT_DOCROOT ]; then
      svn co file://$REPOS/$TARGET_DIR $PROJECT_DOCROOT
    else
      svn update $PROJECT_DOCROOT
    fi
  fi
  exit
fi
done
```

### svn-commit-siteupdate.sh

trunk/www, www/trunk, www(\*)のいずれかの  
ディレクトリをチェックアウトし、サイトを更新する

\* www/trunk, www は旧スタイル